令和5年度 年次報告書

令和7（2025）年3月
姫路獨協大学 人間社会学群

各基準における判定

基準1～基準6に含まれる各自己判定の項目に対する判定は、以下とする。

- 4：基準項目を満たしている
- 3：基準項目を満たしているが、一部改善すべき点がある。
- 2：基準項目について多くの改善すべき点がある。
- 1：基準項目を満たしていない。

基準1. 使命・目的等

基準項目1-1. 使命・目的及び教育目的の設定		
自己判定	「基準項目1-1を満たしている」	
自己判定の項目		判定
① 理念及び教育研究上の目的の策定と公表	(1) 大学全体の理念・目的を踏まえ、教育研究上の目的を学則等で規定している。	4
	(2) 教育研究上の目的達成のための目標を策定している。	4
	(3) 教育研究上の目的が、社会のニーズを反映したものになっている。	4
	(4) 教育研究上の目的が、教職員及び学生に周知されている。	4
	(5) 教育研究上の目的が、ホームページ等で公表されている。	4
	(6) 社会情勢などに対応し、教育研究上の目的の定期的な検証を行っている。	4
基準1 現状の説明、自己点検・評価（800字以内程度で記載ください）		
<p>本学の理念「大学は学問を通じての人間形成の場である」を実践する場として、近年の国際化・情報化・多様化の進展、科学技術の発達、労働形態の変革、環境問題の深刻化、少子・高齢化の進行に対応できる人材を育成するため、「実学」「国際性」「開放性」をコンセプトとした教育を推進している。本学群の目的は、姫路獨協大学学則に具体的かつ明確に示されている。国際言語文化学類では、令和4年度第4回学類教員会議において、ディプロマ・ポリシーの8を変更することを決定し、それを受け、カリキュラムマップを完成した(学類メール審議)。</p>		
基準1 改善・向上方策（将来計画）		
<p>現状では社会情勢などに対応し、教育研究上の目的の定期的な検証を教授会や各学類教員会議等において行っているが、そのことを特に議事録等には明記していないので、もしその必要があるのであれば、文書として記録することを検討したい。</p>		
総合判定	「基準1を満たしている」	
基準1 大学からの改善の提言・要望		
<p>概評：建学の精神に基づき、学群の使命・目的および三つのポリシー（DP、CP、AP）が定められている。また、社会のニーズを反映したものとなっていることについて、教授会において定期的に検討されている。</p> <p>大学からの改善の提言・要望：特になし</p>		
基準1 エビデンス資料		
(1)-1 姫路獨協大学学則		
(1)-2 姫路獨協大学人間社会学群規程		
(2)-1 姫路獨協大学学則		
(2)-2 姫路獨協大学_教育研究上の目的（学群）		
(2)-3 姫路獨協大学_人間社会学群(理念・目的)		
(3) 2022年度_履修の手引		
(4) 2022年度_履修の手引		
(5) 姫路獨協大学_教育研究上の目的（学部）		
(6) 令和4年度第4回国際言語文化学類教員会議議事要録		

基準2. 学生

基準項目2-1. 学生の受入れ		
自己判定	「基準項目2-1を満たしている」	
評価の視点	自己判定の項目	判定
① 教育目的を踏まえたアドミッション・ポリシー（AP）の策定と周知	(1) 教育研究上の目的に基づき、APを策定している。	4
	(2) APが、教職員及び学生に周知されている。	4
	(3) APが、ホームページ等で公表されている。	4
	(4) 社会情勢などに対応し、APの定期的な検証を行っている。	4
② アドミッション・ポリシー（AP）に沿った入学者受入れの実施（公正かつ妥当な方法、適切な体制）とその検証	(5) APに基づき、責任ある体制下で合格候補者を決定している。	4
	(6) APに基づき、入学試験実施科目及び実施方法の原案を作成している	4
	(7) 公平な入学者選抜の機会を提供している。	4
	(8) 入学後の成績を検証し、入学者受入れの改善策を図っている。	4
	(9) 入学者数の適切性について検証し、改善策が図られている。	4
	(10) 入試問題の作成は、大学が自ら行っている。	4
基準項目2-2. 学修支援		
自己判定	「基準項目2-2を満たしている」	
③ 教員と職員等の協働をはじめとする学修支援体制の整備	(1) オフィスアワー制度を全学的に実施している。	4
	(2) 障がいのある学生への配慮を行っている。	4
	(3) 中途退学、休学及び留年への対応策を行っている。	4
	(4) 教員の教育活動を支援するために、SAなどを適切に活用している。	4
基準項目2-3. キャリア支援		
自己判定	「基準項目2-3を満たしている」	
④ 教育課程内外を通じての社会的・職業的自立に関する支援体制の整備	(1) キャリア教育のための支援体制を整備している。	4
	(2) 学生の就職・進学等の相談に対応している。	4
基準項目2-4. 学生サービス		
自己判定	「基準項目2-4を満たしている」	
⑤ 学生生活の安定のための支援	(1) 教員が学生と面談し、生活指導を行っている	4
	(2) 学生サービス、厚生補導のための組織を設置し、適切に機能している。	4
	(3) 奨学金など学生に対する経済的な支援を適切に行っている。	4
	(4) 学生の課外活動への支援を適切に行っている。	4
	(5) 学生の心身に関する健康相談、心的支援、生活相談などを適切に行っている。	4
基準項目2-5. 学修環境の整備		
自己判定	「基準項目2-5を概ね満たしているが、一部改善すべき点がある」	
⑥ 教育目的の達成のための、快適な学修環境を整備かつ有効な活用。	(1) 図書館では学術情報資料を確保し、十分に利用できる環境を整備している。	4
	(2) 実習施設を適切に整備している。	4
	(3) 体育施設を適切に整備している。	4
	(4) コンピュータなどのIT施設を適切に整備している。	3
	(5) 施設・設備の利便性（バリアフリーなど）に配慮している。	4
	(6) クラスサイズなどは教育効果を十分上げられるような人数となっている。	4
	(7) 施設・設備の安全性（耐震など）を確保している。	4
基準項目2-6. 学生の意見・要望への対応		
自己判定	「基準項目2-6を満たしている」	
⑦ 学修支援・学生生活・学修環境に関する学生の意見・要望の把握・分析と検討結果の活用（経済支援・健康相談・施設及び設備）	(1) 学生の意見をくみ上げるシステムを適切に整備している。	4
	(2) 様々な学生からの意見を踏まえ、学生生活の改善に反映している。	4

基準2 現状の説明、自己点検・評価（800字以内程度で記載ください）	
<p>3ポリシーの改正案策定に当たっては、各学類教員会議で検討された素案を基に原案を作成し、学群教授会の審議を経て決定されるが、令和4年および令和5年度については変更を行っていない。入学者数の適切性について検証し改善策は講じているが、公立化の失敗等による本学自体の社会的評価の失墜もあり、定員充足率の低迷が続いている。また、コンピュータ演習室の整備、更新等に対しては、そのための経費が十分に予算化されていないため、善意あるボランティアにより辛うじて維持されている部分がある。</p>	
基準2 改善・向上方策（将来計画）	
<p>入学者数の適切性については検討するまでもなく適切な数を大きく下回っている。予算もかなり限られている中、今後も引き続き、少しでも回復できるように受験生の入学意欲を高められるような施策を早急に考え実行する必要がある。また、コンピュータ演習室の整備、更新等に対しては、しかるべき部局に対して、その必要性を積極的に示していきたい。</p>	
総合判定	「基準2を概ね満たしているが、一部改善すべき点がある」
基準2 大学からの改善の提言・要望	
<p>概評：学群で策定されたAPに従い各種入試を実施しているが、収容定員充足率向上のため一層の努力が望まれる。全学における学修支援体制に加え、留学生、障がいのある学生への対応を含め、学生の個別のニーズに対応したきめ細かい指導が行われている。キャリア支援、学生サービス、生活支援についても積極的に取り組んでいる。学修支援、学修環境に対する学生の意見・要望を把握するため、学生にアンケート調査を実施し、FD委員会及び教授会において授業改善の方策について定期的に協議している。</p> <p>大学からの改善の提言・要望：特に無し</p>	
基準2 エビデンス資料	
基準2-1 エビデンス資料	
(1) 令和4、5年度 人間社会学群教授会議事要録	
(2) (3) アドミッション・ポリシー（入学者受入れの方針）(https://www.himeji-du.ac.jp/univ/admission-policy/)	
(4)-2 【2024】入試ガイド、【2025】入試ガイド	
(4)-3 収容定員（令和5年5月1日現在 総務部）	
(4)-4 入学者数 在籍者数（令和5年5月1日現在 総務部）	
(5)～(9) 令和4、5年度 人間社会学群教授会議事要録	
(10) 資料無し	
基準2-2 エビデンス資料	
(1) オフィスアワーについて 2022・2023年度履修の手引き	
(2) 授業配慮申請書(用紙のみ)	
(3) 人間社会学群における修学状況（令和5年5月1日現在 教務部）	
(4) 人間社会学群SAのまとめ（令和5年5月1日現在 教務部）	
基準2-3 エビデンス資料	
(1) HP 就職・進路（キャリアセンター）	
(2) 2022・2023年度履修の手引き（学群全学共通科目）	
基準2-4 エビデンス資料	
(1) HP オフィスアワー	
(2) 学生サービス、厚生補導のための組織を示す資料（学生部）	
(3) 奨学金給付・貸与状況を示す資料（学生部）	
(4) 学生の課外活動などへの支援状況を示す資料（学生部）	
(5) 令和4、5年度 健康管理室年報（第36号、第37号）	
基準2-5 エビデンス資料	
(1)-1 図書、資料の所蔵数および受け入れ状況（附属図書館）	
(1)-2 令和4、5年度_人間社会学群外国雑誌および和雑誌一覧（附属図書館）	
(2)-1 教育に使用する施設の状況（総務部）	
(2)-2 実習などに使用する施設（総務部）	
(3) 体育施設（総務部）	
(4) コンピュータなどのIT施設（総務部）	
(5) 施設・設備の利便性（バリアフリーなど）（総務部）	
(6) クラスサイズ（総務部）	
(7) 施設・設備の安全性（耐震など）（総務部）	
基準2-6 エビデンス資料	
(1) (2) 姫路獨協大学_学修成果・学生生活アンケート (https://www.himeji-du.ac.jp/univ/fd/)	

基準3. 教育課程

基準項目3-1. 単位認定、卒業認定、修了認定		
自己判定	「基準項目3-1を満たしている」	
評価の視点	評価の視点に関わる自己判定の留意点	判定
① ディプロマ・ポリシー (DP) の策定と周知	(1) 教育目的を踏まえたDPを定め、周知している。	4
② ディプロマ・ポリシーを踏まえた単位認定基準、進級基準、卒業認定基準、修了認定基準等の策定と周知	(2) DPを踏まえた単位認定基準を適切に定め、周知している。	4
	(3) DPを踏まえた進級基準を適切に定め、周知している。	4
③ 単位認定基準、進級基準、卒業認定基準、修了認定基準等の厳正な適用	(4) DPを踏まえた卒業認定基準、修了認定基準等を適切に定め、周知している。	4
	(5) DPを踏まえた単位認定基準を厳正に適用している。	4
	(6) DPを踏まえた進級基準を厳正に適用している。	4
	(7) DPを踏まえた卒業認定基準、修了認定基準等を厳正に適用している。	4
	(8) GPAを有効に活用している。	4
	(9) 成績評価に対し、学生からの異議申立の仕組みを整備し学生へ周知している。	4
基準項目3-2. 教育課程及び教授方法 (1)		
自己判定	「基準項目3-2を満たしている」	
評価の視点	評価の視点に関わる自己判定の留意点	判定
④ カリキュラム・ポリシー (CP) の策定と周知	(1) 教育目的を踏まえ、CPを定め周知している。	4
⑤ カリキュラム・ポリシーに沿った教育課程の体系的編成・ディプロマ・ポリシー (DP) との一貫性	(2) 教養教育及び専門教育の目標を設定している。	4
	(3) 科目ナンバリングを行なっている。	4
	(4) カリキュラムマップ等により、CPとDPとの一貫性を確保している。	4
	(5) カリキュラムの体系的性及び科目の順次性をカリキュラム・ツリーで明示している。	4
	(6) シラバスを適切に整備している。	4
	(7) 履修登録単位数の上限を適切に設定している。	4
	(8) 履修年次に応じた履修モデルを作成している。	4
	(9) 教養教育を適切に実施している。	4
基準項目3-3. 教育課程及び教授方法 (2)		
自己判定	「基準項目3-3を満たしている」	
評価の視点	評価の視点に関わる自己判定の留意点	判定
⑥ 教育課程の編成及び実施に関する方針に基づいた教育が適切に実施されている。	(1) 学修目標の達成に適した学修方略が用いられている。	4
	(2) 教務委員会及び協議会等を設置し、適切に機能させている。	4
	(3) FD委員会等の教授方法の改善を進めるために組織体制を整備し、運用している。	4
⑦ 教育課程を活性化し効果的に行うための、教授方法の工夫・開発と効果的な実施 (教育課程及びその内容、方法の適切性について検証し、改善・向上が図られている。)	(4) シラバス項目及び記載内容の検証・改善を行なっている。	4
	(5) 学生の資質・能力の向上に資する学修・教授・評価方法を開発している。	4
	(6) 「授業評価アンケート」の結果をもとに教育改善活動を行なっている。	4
	(7) アクティブ・ラーニングなど、授業内容・方法に工夫をしている。	4
	(8) 学生の学修を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じている。	4
基準項目3-4. 履修指導		
自己判定	「基準項目3-4を満たしている」	
評価の視点	評価の視点に関わる自己判定の留意点	判定
⑧ 履修指導が適切に行われていること。	(1) 新生に対し教育課程の全体像を俯瞰できるような導入ガイダンスを行っている。	4
	(2) 教員が学生と面談し、履修指導・学修相談を行っている。	4
	(3) 在学生に対し、各学期で履修ガイダンスを行なっている。	4
	(4) 入学までの学修歴等に応じた履修指導を行なっている。	4
	(5) 学修ポートフォリオを導入し、履修指導に活用している。	3
	(6) 学修ポートフォリオを活用し学修達成度の自己点検・評価を行っている。	3
	(7) 留年生・卒業延期者に対して適切に履修指導をおこなっている。	4

基準項目3-5. 学修成果の点検・評価		
自己判定	「基準項目3-5を満たしている」	
評価の視点	評価の視点に関わる自己判定の留意点	判定
⑨ 三つのポリシーを踏まえた学修成果の点検・評価方法の確立とその運用（ディプロマ・ポリシーに含まれている学修・教育目標の達成度の評価）	(1) 大学が定めたアセスメント・プランに基づいて学修成果を点検・評価している。	4
	(2) 学修成果を測定するため、学修ポートフォリオシステムを構築している。	3
	(3) 学修成果を測定するための指標（ルーブリック等）を設定している。	4
	(4) 在籍（留年・休学・退学等）及び卒業状況の入学年次別分析等を行っている。	4
	(5) 学修成果の評価結果が、教育課程の編成及び実施の改善・向上に活用されている	4
⑩ 教育内容・方法及び学修指導等の改善へ向けての学修成果の点検・評価結果のフィードバック	(6) 卒業生及び進路先企業等へのアンケートを実施している。	3
	(7) 学修成果の点検・評価結果を学生への学修指導の改善にフィードバックしている。	4
基準3 現状の説明、自己点検・評価（800字以内程度で記載ください）		
<p>各学類でディプロマ・ポリシーを定め、「履修の手引」に掲載して配付している。現代法律学類では「自分の専門領域に軸足をおきつつも、人間社会の多様な課題に対処できるジェネラリストとなること」を念頭において策定された。更にディプロマ・ポリシーに基づいて作られた単位認定基準、進級基準、卒業認定基準は全て「履修の手引き」に掲載し配布している。なお本学群では2年次～4年次に至るまで進級基準を設けていないが、学期始めに各学年を対象にしたガイダンスで単位認定や履修、成績等について指導・助言を行い、成績評価や単位認定、卒業認定の基準と適用について周知を図っている。また本学群の教育研究上の目的を定め、目的の達成に向けた計画的で効果的な教育研究活動を展開していくためにカリキュラム・ポリシーとディプロマ・ポリシーとの一貫性を図っている。これに関連して、科目ナンバリングおよびカリキュラムツリーも作成・公表しているが、先行研究の報告も踏まえて組織全体としてルーブリックの設定は行っていない。またシステムとして学修ポートフォリオの構築・運用も行っていない。</p>		
基準3 改善・向上方策（将来計画）		
<p>各学類が定めるディプロマ・ポリシーに沿った学修成果を修め、卒業要件を満たした者について学群教授会の審議を経て学長が卒業を認定していることから、直ちに改善・向上方策を採らねばならない状況にはないが、今後も随時点検を行い必要に応じて改善を図っていく。また経費上ITシステムとして学修ポートフォリオを構築・運用することは現状では大学全体でもその実現は難しいものと考えられるが、各学生がそれぞれが所有するPC等において各セメスター毎等に学習記録を中心に関連する資料を集約しそれを利用するという形態であれば、そのための指針を提示することは可能であると考え。進路先企業等へのアンケートを実施する場合は、学部・学群単位よりも大学全体で一括して行うほうが望ましいと考える。</p>		
総合判定	「基準3を概ね満たしているが、一部改善すべき点がある」	
基準3 大学からの改善の提言・要望		
<p>概評：教育目的を踏まえたDPを策定し、公表するとともに学生ガイダンス等にて学生への周知させている。また、DPを踏まえた、単位認定基準、進級基準、卒業認定基準を定め、教職員、学生に周知を図っている。単位認定、成績評価については、シラバスに授業科目ごとの到達目標と具体的評価方法を明示しており、授業等で具体的な説明を行い、厳正に運用している。</p> <p>大学からの改善の提言・要望：学修ポートフォリオを導入し、履修指導に活用できるシステムを構築する事が望まれる。</p>		
基準3 エビデンス資料		
基準3-1 エビデンス資料		
(1)-1 姫路獨協大学学則（第38条、第39条）		
(1)-2 令和5年度 履修の手引：ディプロマ・ポリシー（ https://www.himeji-du.ac.jp/univ/diploma-policy/ ）		
(2)、(3)、(4)、(8)、(9) 令和5年度 履修の手引：単位修得・進級・卒業要件について		
(5) 単位認定_人間社会学群教授会（教員会議）議事要録		
(6) 進級判定_人間社会学群教授会（教員会議）議事要録		
(7) 卒業判定_人間社会学群教授会（教員会議）議事要録		
基準3-2 エビデンス資料		
(1)-1 姫路獨協大学学則（第38条、第39条）		
(1)-2 令和5年度 履修の手引：カリキュラム・ポリシー（ https://www.himeji-du.ac.jp/univ/curriculum-policy/ ）		
(2) 学生の育成目標（ https://www.himeji-du.ac.jp/univ/philosophy/ ）		
(3) シラバス（URL https://www.himeji-du.ac.jp/univ/syllabus/2024.html ）		
(4) 資料無し		
(5) 令和5年度 履修の手引：人間社会学群の教育モデル		
(6)、(7) シラバス（URL https://www.himeji-du.ac.jp/univ/syllabus/2024.html ）		
(8) 令和5年度 履修の手引：人間社会学群の教育モデル		
(9) 令和5年度 履修の手引：人間社会学群 全学共通科目		

基準3-3 エビデンス資料
(1) シラバス (URL https://www.himeji-du.ac.jp/univ/syllabus/2024.html)
(2) 教務委員会規程
(3) FD委員会規程
(4)、(5) 資料無し
(6) 授業評価アンケート
(7)(8) 姫路獨協大学 FD委員会活動・活動報告 (https://www.himeji-du.ac.jp/univ/fd/)
基準3-4 エビデンス資料
(1) 新入生オリエンテーション
(2) HP オフィスアワー、履修の手引き
(3) 学部ガイダンス 前期・後期
(4)～(7) 資料無し
基準3-5 エビデンス資料
(1) 在籍（留年・休学・退学等）及び卒業状況の入学年次別分析等（教務部）
(2)～(4) 資料無し
(5) 在籍（留年・休学・退学等）及び卒業状況の入学年次別分析等（教務部）
(6)、(7) 資料無し

基準4. 教員・職員

基準項目4-1. 教員の配置等		
自己判定	「基準項目4-1を満たしている」	
評価の視点	自己判定の項目	判定
① 教育研究上の目的に沿った教育研究活動の実施に必要な教員組織が整備されていること。	(1) 教育研究活動の実施に必要な教員組織の編成方針を定めている。	4
	(2) 専任教員数については法令に定められている数以上である。	4
	(3) 教授、准教授、講師、助教の人数比率及び年齢構成が適切である。	3
	(4) 教育・研究上の指導能力と高い見識がある者が、専任教員として配置されている。	4
	(5) 必須科目には、原則として専任の教授又は准教授が配置されている。	4
	(6) 教員の採用及び昇任が、適切な規程に基づいて行われている。	4
	(7) 次世代を担う教員の養成に努めている。	3
基準項目4-2. 教員の職能開発等		
自己判定	「基準項目4-2を満たしている」	
評価の視点	自己判定の項目	判定
	(1) FD活動を通じて、教員の教育能力向上への取り組みを行っている。	4
	(2) FD活動を通じて、教育課程の開発及び改善を図っている。	4
	(3) FD活動を通じて、教育効果を高める授業方法の改善等を行っている。	4
	(4) FD活動を通じて、教員の研究活動の活性化を図る取り組みを行っている。	4
	(5) FD活動を通じて、社会貢献等の諸活動についてその資質向上を図っている。	4
	(6) 授業評価アンケート等に基づく授業改善を行っている。	4
	(7) 教員の活動が教育研究上の業績等で示され、公表されている。	4
	(8) 研究活動を行うための環境が整備されている。	4
	(9) 実務の経験を有する専任教員が、研鑽できる体制・制度の整備に努めている。	4
	(10) 教育研究活動の実施に必要な職員組織（教員以外の組織）が整備されている。	4
基準4 現状の説明、自己点検・評価（800字以内程度で記載ください）		
<p>教員の新規採用に関しては、全学の方針に則り、本学群ではカリキュラム遂行上必要不可欠と思われる教育研究分野に欠員を生じた場合に限り教員人事委員会に対して採用の申請を行っている。新規採用が学長により承認された後は、欠員が生じた学類において厳格に審査を行い、採用候補者を選定する。その後、学群教授会における審査・承認を得て、最終的には学長の承認を受け採用が確定する。教員の昇任に関しては、まず当該教員の所属する学類において各学類の内規に則って審議した後に、学群教授会の審査・承認を得て、最終的には学長の承認を受け昇任が確定する。国際言語文化学類は、学類における教員の採用・昇任については学類内に3つの規則を定めている。そのうち「外国語学部人事委員会に関する申し合わせ事項」は実態に合わず、実際の運用はこれに基づいていないため見直しが必要となっているため、2022年度第7回学類教員会議において「国際言語文化学類人事委員会に関する申し合わせ事項」を承認決定した。現代法律学類は、教員の採用については、学群の基本的な採用方針に従い、厳格な手続きのもとで慎重に審査を行って採用候補者を選定している。教員の昇任等についても、採用の場合と同様に、厳格な手続きのもとで慎重に審査を行って教員の昇任等を内定している。産業経営学類は、学類教員会議における担当教育研究分野の選定に始まり、新規採用枠の申請から、学類内選考委員会の設置・審査を経て学類教員会議における採用候補者の決定（無記名投票）に至るまで、全て規定に従い厳格にこれを行っている。</p> <p>本学群は、従来、自己点検・評価委員会がFD活動の主體的役割を担ってきたが、令和3年(2021)から新たに学群FD委員会が設置されその任を引き継いでいる。学群のFD活動としては、これまでに学類毎のカリキュラム・ツリーの試作や先駆者による遠隔授業時も含めたICTを活用した効果的な授業方法の紹介等が企画・実施された。令和4年には動画配信による研修、また令和5年には教員相互による授業参観をそれぞれ行った。各教員は適宜学習した技法を各自の授業でも利用し、その効果を測ると共に、各授業により適した形式に改善し授業に活かしている。</p>		
基準4 改善・向上方策（将来計画）		
<p>採用及び昇任人事共、前述のように、規定に従い厳格にこれを行っている。教育内容・方法等の改善の工夫・開発と効果的な実施については、従来から組織的に取り組んできた。しかしながら、他大学等との比較も含め客観的に判断すれば、更なる工夫およびその効果的な実施が必要であると考え。</p>		
総合判定	「基準4を満たしている」	
基準4 大学からの改善の提言・要望		
<p>概評：教員の採用・昇任については学部で策定した規定に基づいて、教授会においてに審議し、学長が決定している。また、大学設置基準及び免許資格等に関する基準に沿って、必要な専任教員を配置している。</p> <p>教育内容・方法等の改善についてはFD委員会を設置し、定期開催及び学部全体でのFD活動を通じて、教育の質保証を目的とした積極的な能力開発を行っている。</p>		
大学からの改善の提言・要望：特に無し		

基準4 エビデンス資料

基準4-1 エビデンス資料

- (1) 姫路獨協大学教員人事委員会規程
- (2) 教員・職員の数（教務部）
- (3) 専任教員の年齢構成・男女構成（教務部）
- (4) 教員取得免許・学位等一覧（総務部）
- (5) 専門科目における専任教員配置数一覧（教務部）
- (6) 教員採用及び昇任に関する基準・手続等
- (7)-1 次世代を担う教員の養成に努めている事を示す資料（FD活動の記録、<https://www.himeji-du.ac.jp/univ/fd/>）
- (7)-2 人間社会学群人事教授会議事要録(例えば、令和5年度第1回)
- (7)-3 令和4年度第7回国際言語文化学類教員会議議事要録
- (7)-4 国際言語文化学類人事委員会に関する申合事項

基準4-2 エビデンス資料

- (1)-1 姫路獨協大学人間社会学群 FD 委員会に関する内規
- (1)-2 姫路獨協大学人間社会学群自己点検・評価委員会に関する内規
- (2) 令和4年FD研修：動画配信「学生とのコミュニケーションのキーポイントについて考える」学群FDクラスルーム
- (3) 教育研究活動の自己点検・評価_FD活動（<https://www.himeji-du.ac.jp/univ/fd/>）
- (4) 令和4、5年度 前期・後期「学生による授業評価アンケート」（<https://www.himeji-du.ac.jp/univ/fd/>）
- (5) 令和5年度前期・後期_教育活動自己評価（<https://www.himeji-du.ac.jp/faculty/f/report/>）
- (6) 授業評価アンケート等に基づく授業改善資料（学生部）
- (7) 大学HP URL <https://www.himeji-du.ac.jp/faculty/f/report/>
- (8) 教育に使用する施設の状況（総務部）
- (9) 実務の経験を有する専任教員が、研鑽できる体制・制度（総務部）
- (10) 事務組織の構成と人員配置（総務部）

基準5. 内部質保証

基準項目5-1. 内部質保証の組織体制		
自己判定	「基準項目5-1を満たしている」	
評価の視点	自己判定の項目	判定
① 内部質保証のための組織の整備、責任体制の確立	(1) 全学的な方針及び手続きに基づき、内部質保証の組織体制を構築している。	4
	(2) 学則に基づき教授会を設置し、定期的を開催している。	4
	(3) 教務委員会等を設置し、定期的を開催している。	4
	(4) FD委員会等を設置し、定期的を開催している。	4
	(5) 自己評価・点検委員会を設置し、定期的を開催している。	4
基準項目5-2. 内部質保証のための自己点検・評価及びその機能性		
自己判定	「基準項目5-2を満たしている」	
② 内部質保証のための自主的・自律的な自己点検・評価の実施とその結果の共有（PDCAサイクルの確立）	(1) 自己点検・評価を定期的に行っている。	4
	(2) 自己点検・評価結果に基づき、教育研究活動の改善を図っている。	4
	(3) 自己点検・評価の結果をホームページ等で公表している。	4
	(4) 教育研究等活動状況を公表している。	4
	(5) IRなどを活用した十分な調査・データの収集と分析を行っている。	4
そ	<p>従来、本学群としての内部質保証の仕組みは、学群教授会において教務委員を中心とした学群各委員により提示される課題を審議・承認し、質の向上を図るべく対策を講じるというものであった。従って、自己評価委員も選任されているが、その主な仕事内容は数年に一度受審することが義務付けられている外部評価機関への申請書類の取りまとめ等であり必ずしも内部質保証のために主体的に活動するというものではなかった。</p> <p>しかしながら、令和2年(2020)の全学の内部質保証の方針決定を受け、令和3年(2021)の学群教授会における審議の結果、それまでFD機能も内包した自己点検・評価委員会を再編成し、新たに教育研究機関としての学群の活動を自主的に点検・評価し改善要望を提起する機関として学群自己評価委員会を発足させた。令和4年および令和5年共に自己点検・評価およびFD活動については委員会ではなく各学類教員会議等において必要に応じて審議している。</p> <p>国際言語文化学類は、令和3年度(2021年度)第2回(5月10日)の国際言語文化学類教員会議において学群自己点検・評価委員会の設置を決定し、第4回(7月12日)の同会議において、学類自己点検・評価委員会の内規を制定した。現代法律学類は、令和3年(2021年)の現代法律学類教員会議において自己評価委員会の設置および同委員会内規を、それぞれ審議の上承認した。産業経営学類は、既に設置されている学群自己評価委員会内規を、令和3年(2021)11月の産業経営学類教員会議において審議の上承認した。また令和3年(2021)に全学のIR組織が設立されたことを受けて、IR組織から提供される情報を利用するだけでなく、積極的に学類で必要とする情報を示す客観的定量的なデータをIR組織と協働で作成し学類の教育の質保証に活用することが考えられるが、令和4年および令和5年共に、全学のIR組織の機能も明確となっていないことから、必要に応じて主として教務委員を通して教務課、総務課、キャリアセンター等の事務組織にデータを依頼し活用している。</p>	
基準5 内部質保証の体系図		
学群の内部質保証に係るPDCAサイクルの概念図を令和3年(2021)年度年次報告書(人間社会学群)に記載しているが、令和4年および令和5年共に、この概念図に示された組織構造に変化はない。		
基準5 改善・向上方策(将来計画)		
<p>本学群においても他大学の多くの事例同様、学群長並びに学類長(以下、学群長等と記す)がその委員として選定されている。学群並びに学類の実態に適した規定の作成や、年次報告書等の書類作成等にあって必要となる基本情報の収集・整理等、組織の立ち上げ時には当該組織を良く知る人物として委員会を迅速に軌道に乗せるということにおいて学群長等の存在はそれなりの効果を与えるものと考えられる。但し、本質的には点検・評価を行う組織に学群長等が属することは利益相反の恐れから望ましいものとは言えず可及的速やかにその解消が望まれる。しかしながら、所属教員数の減少等により令和4年および令和5年共に、本件については未審議である。</p>		
総合判定	「基準5を満たしている」	
基準5 大学からの改善の提言・要望		
<p>概評：大学のアセスメント・プランに基づき、学部にPDCAサイクルによる内部質保証システムを整備している。定期的に学部の自己評価委員会を開催し改善を図っている。</p> <p>大学からの改善の提言・要望：特に無し</p>		
基準5 エビデンス資料		
基準5-1 エビデンス資料		
(1) 姫路獨協大学内部質保証に関する方針 (https://www.himeji-du.ac.jp/univ/naibushitsu/)		
(2) 姫路獨協大学人間社会学群 FD 委員会に関する内規		
(3) 姫路獨協大学人間社会学群自己点検・評価委員会に関する内規		
(4) 令和4年度人間社会学部教育改善実施(FD)委員会議事要録		
(5) 第88回 産業経営学類教員会議議事要録		
(6) 令和5年度前期実施教員による授業参観評価アンケートシート		

(7) 人間社会学群産業経営学類教員による授業参観実施要領
(8) 令和3(2021)年度年次報告書(人間社会学群)
基準5-2 エビデンス資料
(1) 人間社会学群自己点検・評価委員会規程
(2) FD活動の記録 (https://www.himeji-du.ac.jp/faculty/f/report/)
(3) 年次報告書 (https://www.himeji-du.ac.jp/univ/a-report/)
(4) 人間社会学群 専任教員の教育研究活動報告書 (https://www.himeji-du.ac.jp/faculty/f/report/)
(5) 資料無し

基準6. 地域連携・社会貢献

基準項目6-1. 地域連携・社会貢献に関する方針の明示		
自己判定	「基準項目6-1を満たしている」	
評価の視点	自己判定の項目	判定
① 社会貢献・社会連携に関する方針の策定及び適切な明示	(1) 社会貢献・社会連携に関する方針を策定し、ホームページ等で公表している。	4
	(2) 社会貢献・社会連携に関する方針の周知を図っている。	4
基準項目6-2. 地域連携・社会貢献に関する取り組み		
自己判定	「基準項目6-2を満たしている」	
	(1) 地域連携・社会貢献に関する活動による教育研究活動を推進している。	4
	(2) 地域交流、国際交流事業へ参加している。	4
	(3) 高大連携活動を行っている。	4
	(4) 地域貢献のため学外組織との適切な連携体制を構築している。	4
	(5) 地域交流、国際交流事業への参加している。	4
	(6) 学生を積極的に社会と関わらせるよう指導している。	4
基準項目6-3. 社会連携・社会貢献の適切性についての定期的に点検・評価		
自己判定	「基準項目6-3を満たしている」	
③ 定期的に点検・評価及び改善・向上に向けた取り組み	(1) 教員の活動状況を把握し点検・評価している。	4
	(2) 定期的に大学に社会連携・社会貢献の成果を提出している。	4
	(3) 定期的な点検・評価結果に基づき改善・向上策を講じている。	4
基準6 現状の説明、自己点検・評価（800字以内程度で記載ください）		
<p>姫路獨協大学は、「姫路に総合大学を」という姫路市民の強い要望を受け、学校法人獨協学園と姫路市が連携した日本初の公私協力方式により誕生した大学である。地域に密着した大学として、設置の趣旨や役割を認識し、学生に対しては、学生の才能を発掘し、社会に貢献できる職業人を育成する。地域社会に対しては、文化交流、公開講座等を通じて地域貢献の充実化を目指す。また、教育研究活動の成果を積極的に地域社会へ還元する。さらに、市民団体との連携を深め、地域の発展に寄与することを地域貢献の方針としている。これらの考えは、学生教育については本学群のアドミッション・ポリシーを内包する全学のアドミッション・ポリシーに「地元播磨地域から未来に貢献しようとする人」という文言で明記し大学HP等を通して周知している。</p> <p>また社会貢献・社会連携については、大学HP(地域連携課)において、地域の文化および産業の振興、地域社会の発展により一層寄与できるよう取り組む旨が明記されている。本学群においてもその方針の下、地域連携課を通して、所属教員の公開講座等の開講を地域社会に広く周知している。本学群所属の教員は、外部有識者として市役所等の各種委員会委員等を務めている。また広く一般市民に対しては、公開講座等の講師を務め専門分野に関する幅広い知識を提供している。</p>		
基準6 改善・向上方策（将来計画）		
<p>本学群所属教員は、その他の社会連携・社会貢献に関する取り組みとして、例えば、市の政策立案に資するイベントへの学生の参加奨励等、学生を積極的に社会と関わらせるよう指導している。しかし、学生の地域参加は年々薄れて来ている。本学並びに本学群の設立の趣旨を鑑みて、学生の地域社会への関心を高める方策を図る必要がある。また本学群は、現代法律学類・国際言語文化学類・産業経営学類という主とする学問領域が異なる3学類より構成されている。必然的に所属教員の専門分野は多岐にわたるが、その多様性・専門性を活かして、積極的に地域社会の活性化のために何ができるのかを検討・立案し実行に移す必要があると考えている。</p>		
総合判定	「基準6を満たしている」	
基準6 大学からの改善の提言・要望		
<p>概評：公開講座などの全学的な地域連携への取り組みに加え、学部独自に自治体の企画への参加やボランティア活動等の地域支援に積極的に関わっており、それらの体験は学生の医療人としての意識向上にもつながっている。</p> <p>大学からの改善の提言・要望：特に無し</p>		
基準6 エビデンス資料		
基準6-1 エビデンス資料		
(1) 地域連携・地域貢献の基本方針 (https://www.himeji-du.ac.jp/region/)		
(2) ディプロマ・ポリシー (https://www.himeji-du.ac.jp/univ/diploma-policy/)		
基準6-2 エビデンス資料		
(1)～(6) 令和4、5年度 地域連携・社会貢献のまとめ（総務部）		
(1)～(6) 教育研究の成果の社会への還元状況（2022年4月～2024年3月）（国際言語文化学類）		
(1)～(6) 教育研究の成果の社会への還元状況（2022年4月～2024年3月）（現代法律学類）		
(1)～(6) 教育研究の成果の社会への還元状況（2022年4月～2024年3月）（産業経営学類）		
基準6-3 エビデンス資料		
(1)(2) 令和4、5年度 地域連携・社会貢献のまとめ（総務部）		
(3) 人間社会学群教授会（教員会議）議事要録		